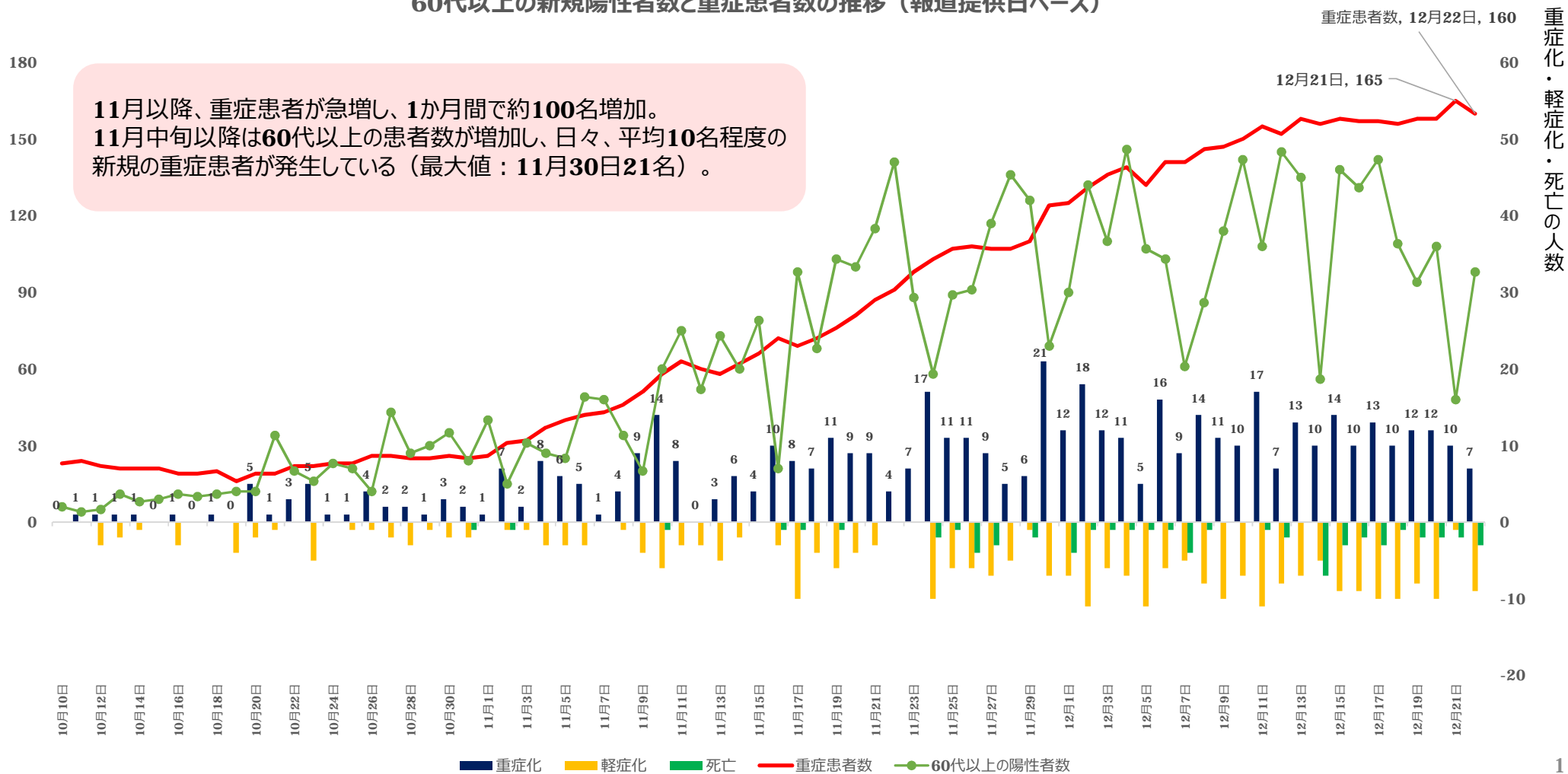


# 新規陽性者数の推移と患者発生シミュレーション 重症患者数の推移

参考資料 1 - 2

60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（報道提供日ベース）

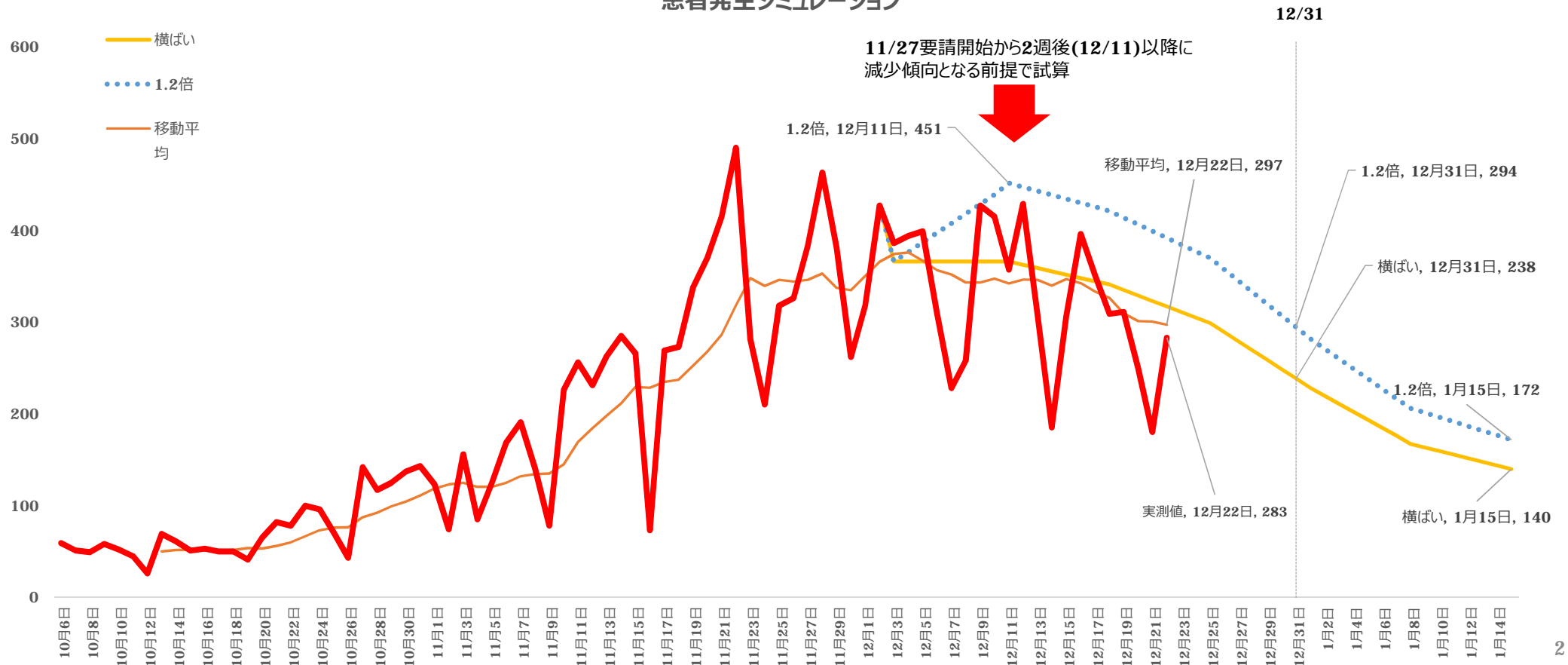
60代以上の新規陽性者数と重症患者数



# 新規陽性者数の推移と患者発生シミュレーション

- 第31回本部会議資料（資料 1-2）を同じ設定のまま1月15日までシミュレーションを実施（第二波（8/7以降）と同じ減少率（前週比）で減少していくと想定）。
  - ・想定①：12/3以降、366名/日（12/2時点の新規陽性者数の7日間移動平均）で横ばいとなり、12/11（11/27の要請から2週間後）以降減少していく場合。
  - ・想定②：12/3以降、新規陽性者数が前週比1.2倍ずつ増加し、12/11をピークに減少していく場合。

患者発生シミュレーション



# 療養者数のシミュレーション

12月3日以降、以下の想定で新規陽性者数が推移した場合の療養者数のシミュレーションを実施。

- 想定①: 12/3以降、366名/日（12/2時点の新規陽性者数の7日間移動平均）で横ばいとなり、12/11(11/27の要請から2週間後)以降減少する場合。
- 想定②: 12/3以降、新規陽性者数が前週比1.2倍ずつ増加し、12/11をピークに減少していく場合。

## 【重症率の設定の考え方】

■ 新規陽性者数のうち、40代以上が55%(\*1)と設定。40代以上の新規陽性者数における重症率を5.8%(\*2)と設定（全体陽性者中の重症率が3%）。

※1: 10/10～11/23の新規陽性者数(6873名)のうち、40代以上の陽性者数(3792名)から算出。

※2: 第二波の実測値から算出

■ 重症者のうち、31%は診断時に重症、69%は診断時は無症状・軽症だが、約3日後に重症化する（第二波実測値）。

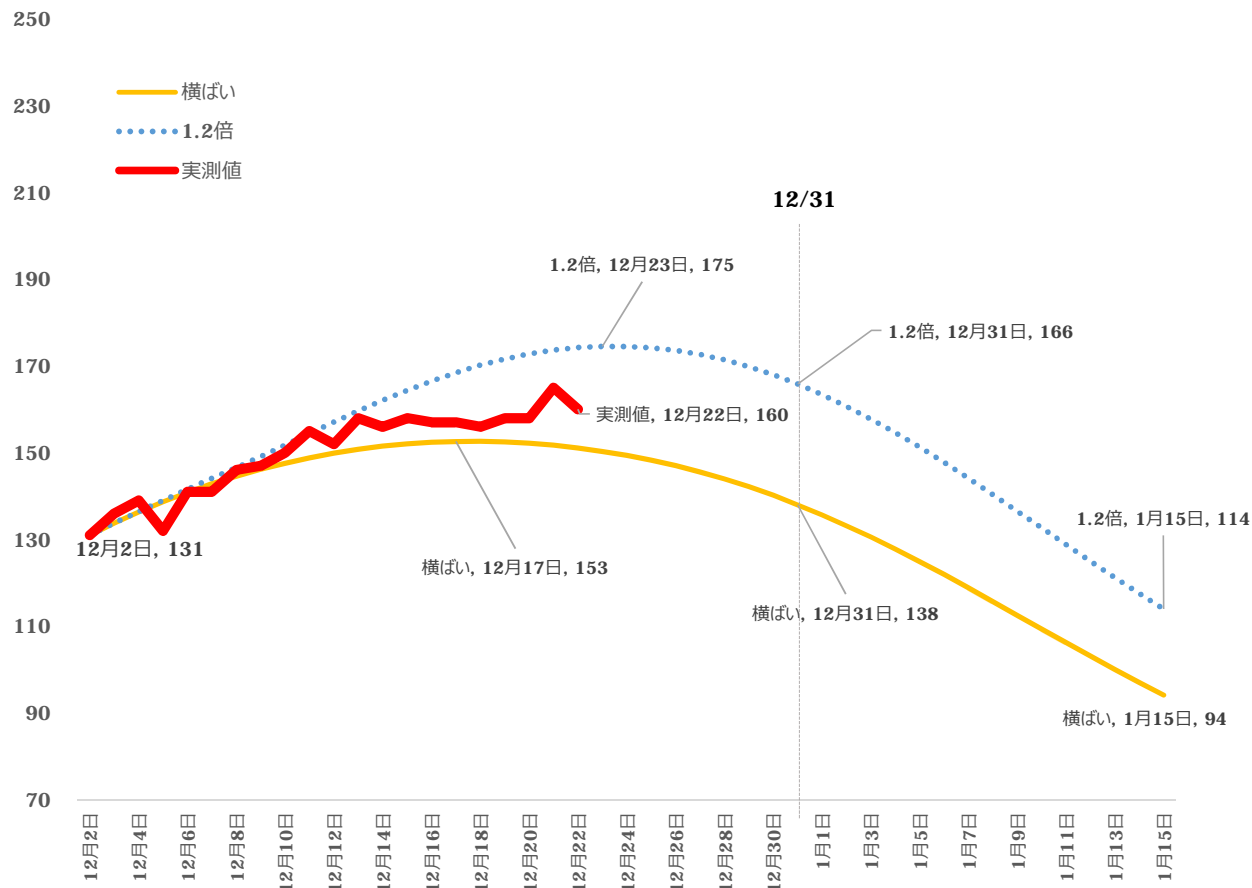
## 【療養方法と期間の設定の考え方】

■ 重症患者以外の陽性者のうち、22.8%は入院療養、34.7%は宿泊療養、42.5%は自宅療養となる（第二波実測値）。

■ 重症患者の入院期間は約21日間で、軽症化した後退院する（第二波実測値）。

■ 重症以外の入院療養者は約11日後に退院する（第二波実測値）。宿泊及び自宅療養者は約7日後に解除とする（第二波の宿泊療養者の療養期間から設定）。

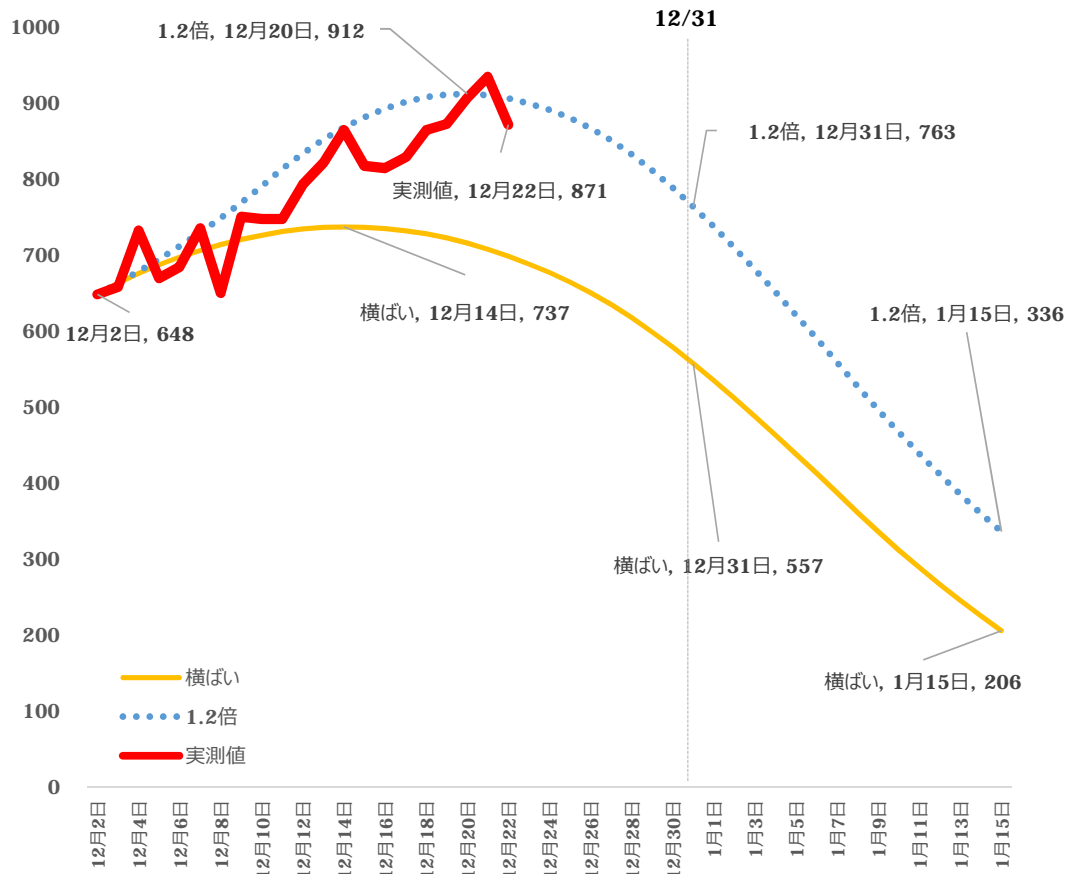
## 入院患者数（重症）シミュレーション



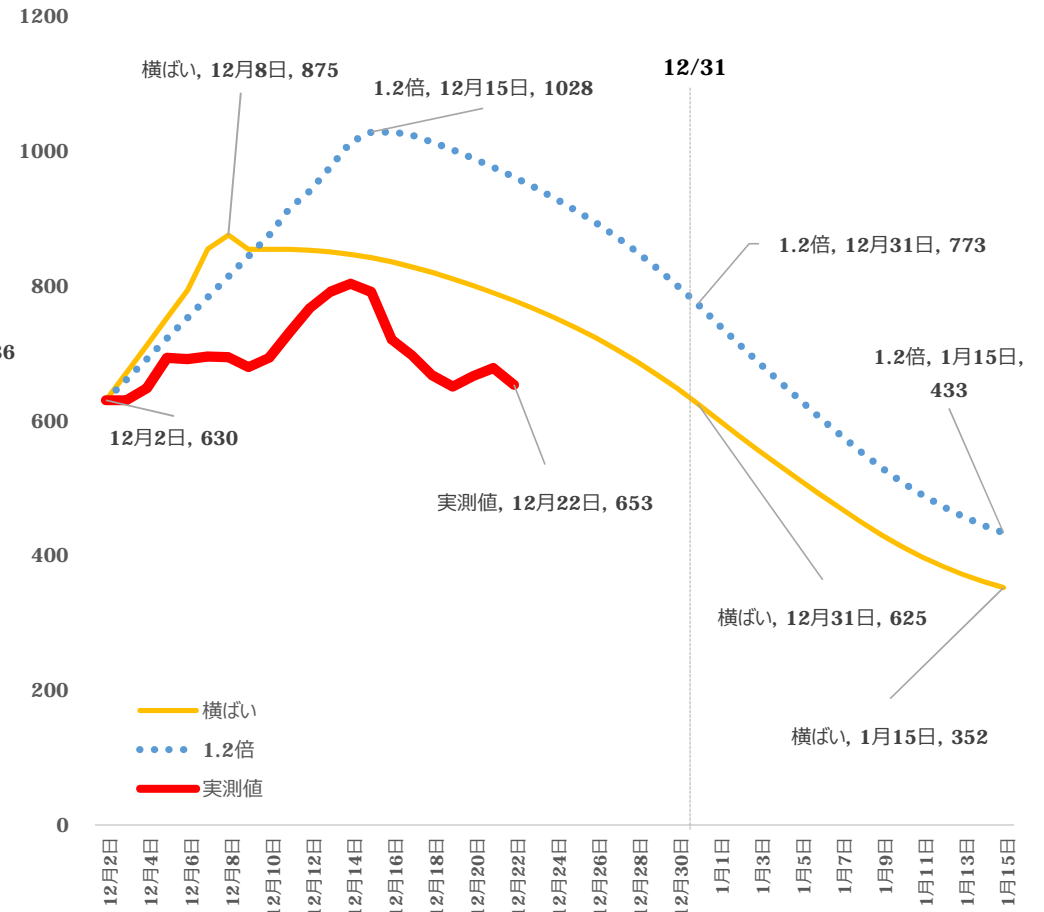
※実運用病床については、日々受入れ病院と調整し、病床を確保。  
令和2年12月15日以降は「大阪コロナ重症センター」が運用開始。

# 療養者数のシミュレーション

## 入院患者数（軽症中等症）のシミュレーション



## 宿泊療養者数のシミュレーション



※実運用病床については、日々受入れ病院と調整し、病床を確保